



長屋峻大

(浜松開誠館)

表彰インタビュー

第1位に輝いたのは浜松開誠館を初の準優勝に導いた長屋峻大投手でした。編集部では本人に表彰状を手渡し、話も伺ってきました。

——夏のベストプレイヤーに選ばれました。受賞した率直な感想を聞かせて下さい。

長屋 今まで野球で賞をもらったことがなかったのでビックリしていますが、素直に嬉しい気持ちでいっぱいです。

——長屋投手は中学までショートで活躍していたそうですね。まず、浜松開誠館に入学したきっかけを教えてください。

長屋 シニアのスタッフの紹介で開誠館の練習を見に行ったとき、あのフルスイングに惹かれました。これまでやってきた野球と全く違っていて驚きましたが、自分も積極的な野球をやってみたいと思い開誠館に決めました。

——入学後、1年秋に投手に転向します。どんな経緯があったのでしょうか？

長屋 バッティングピッチャーで投げているときにスタッフから「ピッチャーをやってみないか」と声をかけられたのが最初でした。ピッチャーはポジション的に好きでしたが、まさか自分がやるとは思っていませんでした。

——その後は球速がグングンと伸びていった印象があります。

長屋 はい。ピッチャーを始めたときは130キロが出ない程度でしたが、一冬を越えた2年の春には135キロまで上がっていました。

——1年の冬はどんな取り組みをしたのでしょうか？

長屋 まずは野手投げみたいな感じだったので、フォームを作ることから始めました。特にテークバックが大きかったので、無駄な動きを省いて投げることを意識しました。

——2年夏からエースとなりましたが、夏は4回戦敗退。秋も県大会で敗れました。

長屋 秋の藤枝明誠戦は勝てた試合だったと思います。大事な場面で自分が納得しながら、何となく選んだ球種を打たれてしまつて、かなり後悔しました。

——その悔しさをバネにして練習を重ねたと思いますが、新型コロナウイルスの影響で夏の甲子園がなくなりました。どう気持ちを立て直してきましたか？

長屋 最初はちよつと落ち込んだのですが、発表の次の日には「仕方がない」と切り替えることができました。甲子園はないけど、大学やその先に向けてやっていこうと思います。

ました。

——練習再開後、最初の練習試合となった6月の磐田東戦でいきなり144キロを出し、プロのスカウトも驚いていました。

長屋 2年の冬はウエイトトレーニングに力を入れ、休校期間中は寮の部屋で主に体幹を鍛えていました。その成果が出たのかなと思います。夏の代替大会までの期間は状態が良くて、ほぼ点を取られることがなかったです。

——好調を維持したまま大会に突入し、初戦から素晴らしい投球を見せてくれました。準々決勝まで23回3分の1を投げて無失点。通算でも30イニングを投げて自責点はわずかに1点でした。

長屋 点を取られないことが一番いいことだと思うので、その点は良かったです。

——夏は真つすぐが走っていましたね。

長屋 真つすぐはもちろんです。相手はその真つすぐの対策をしてきていたので、チェンジアップが有効的になりました。

——計7試合でベストピッチングはどの試合になりますか？

長屋 先発した島田商戦です。ほとんどの球種でストライクを取ることができ、自分



長屋峻大[ながや ゆんた]

2003年2月13日生まれ、京都府京都市出身。小学2年時に「御所南クラブ」で野球を始め、中学は「京都北シニア」に所属。高校入学後、1年秋に内野手から投手に転向。2年夏からエースを務めた。174cm67kg、右投右打。

の思うように投げることができました。

——準決勝、決勝はダブルヘッダーの中、両試合ともリリーフでマウンドに上がりました。疲れはありましたか？

長屋 そうですね。決勝の聖隷クリストファー戦は疲れがありましたが、それでも抑える方法はあったと思うので悔しいです。

——決勝後の取材では、そこまで悔しい印象はありませんでしたが……。

長屋 終わつてすぐは「疲れた」とついているの方が強かったのですが、あとから映像で見て「くそー」とついう気持ちが沸いてきました。

——卒業後は立命館大に入学します。大学での抱負を聞かせて下さい。

長屋 まずストレートは球速を150キロ以上に上げて、変化球はどの球種でも空振りがとれるように磨きたいです。体もしつかりと作つて、4年後のプロを目指します。

——大学での活躍を楽しみにしています！

2020年夏、長屋峻大の投手成績

対戦相手	回数	安打	三振	四死	失点
1回戦 島田工	3 1/3	1	7	0	0
2回戦 磐田西	4 2/3	3	10	1	0
3回戦 鈴井	4	2	4	0	0
4回戦 掛川東	6	6	6	1	0
準々決勝 島田商	5 1/3	3	6	1	0
準決勝 駿河総合	3 2/3	3	5	0	2
決勝 聖隷クリストファー	3	3	1	1	1

本人が「ベストピッチングだった」と振り返る準々決勝の島田商戦は4回まで無安打投球。両足のけいれんの影響で6回途中にマウンドを降りたが、庄巻の投球を披露した。準決勝は6回裏に「死二塁のピンチでマウンドへ。連続三振を奪って試合の流れを引き寄せた。そして、同日に行われた決勝戦でもリリーフ登板。失点したものの、最後まで投げ切った。